

会議の概要

令和元年度 第6回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会

日 時：令和元年11月26日（火）16:30～18:00

場 所：大山小学校 図書室

（進行：大山小教頭 相沢 周）

1 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 矢吹 吉信）

これから第6回コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会）を始めます。よろしくお願いします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

- 大山幼稚園の保育参観、大山小学校の授業参観に参加いただきありがとうございました。
昨今、幼稚園教育が重要視されているが、大山幼稚園の保育参観をして一番感じたのは、チーム力である。例えば、園内のスペースをどのように使うかを担任だけでは決められないわけで、副園長先生を中心にチームで行っていることが挙げられる。また、子どもたちへの指示をあえてしないで、子どもたちの活動を引き出していた。大山スタイルの保育と思っている。
- 「30年後、現在ある職業は半分になっている」と言われている。人工知能（AI）に取って代わられるということで、大変危機感を持っているわけだが、少なくとも幼稚園、小学校の先生はAIではできないのかなと思う。
- 午後は小学校の授業参観だったが、子どもたち同士、子どもと先生が向き合った授業が展開されていた。その一つを紹介する。5年生は外国語の授業で、授業者がネイティブスピーカーのALTと一緒にいたが、全国的に今後あのような形になっていくものと思われる。授業者の佐藤先生は英語の専科の先生であり、本村は先駆的な取り組みを実施している（県内で専科として14人が配置）。この制度を生かして取り組んでいるところである。
- 3年前から大玉村はモデル地区として地域学校協働活動事業に取り組んできたが、お陰様で様々な活動を展開させていただいている。今年度文部科学大臣賞を受賞することになった。県内からは、大玉村と西郷村、会津若松市湊地区が表彰されることになった。皆様方には深く御礼を申し上げたい。本村の大きな特徴は、CS委員会と地域学校協働活動を1つのパッケージとして、いろいろと活動をつないできた継続的、主体的な活動が評価されたと伺っている。CS委員さんのこれまでの取り組みに改めて感謝申し上げたい。
- 6月25日玉井小で学校運営協議会が行われたが、皆さんの自己紹介の中で授業参観の感想も述べてもらい、たくさん褒めていただいた。大山小の校長先生が、「うちの学校に来たときにもぜひ褒めていただきたい。」と話されていたので、今日もぜひ飾らず率直な感想を述べていただきたいと思う。本日はよろしくお願いします。

3 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会会長あいさつ

（コミュニティ・スクール委員会会長 伊藤 和弥）

- みなさんお晩でございます。今日は幼稚園、小学校と続いて行われたわけですが、皆さんお疲れ様でした。
- 私も幼稚園を参観したが、積極的に「おじさん、分からないなら教えてあげるよ」という感じで接してもらい、とても楽しく過ごすことができた。また、午後の英語の授業を見て驚いたのは、想像していた以上に話す活動を取り入れていたということである。大玉では世界に繋がる教育が実践されているんだと感じた。
- 本日は限られた時間だが、大山幼・小に特化したCS委員会であるので、私たちCS委員も学校園に提案できるような話し合いができるとよいと考える。

※ 参加者自己紹介と参観の感想

- 理科の授業を参観した。子どもたちが「みんなで」学んでおり、たぶん分からなかった子はいなかったのではないかな。グループの中で友だち同士助け合う姿も見られた。
- 5年生の英語の授業を参観。楽しそうな雰囲気 of 授業であり、先生の発音の素晴らしさにも感心した。小学校の先生でもこんなに英語を学ばなければならず大変だと思ったが、専門の先生と聞いて安心した。授業の中身もかなり進んでいて驚いた。
- 午前中幼稚園を参観。門を入ったら園児が寄ってきて、いろいろ教えてもらいながら学んだ。印象的だったのは、帰りの読み聞かせの時の集中力が素晴らしかったことである。本の読み聞かせの活動自体も意義あるものと感じた。
- 3年の道徳を参観し、勉強させていただいた。3年生はよく考えているなと思った。中学校ではあまりやらないコの字型の机配置で授業を行っていたが、この隊形の中で、子どもたち一人一人が本当によく考えている姿が伺え、驚いた。指導助言で、学級の2人以外は全員発言したという話が出てきた。先生の授業作りも素晴らしかった。
- 本日は幼稚園を参観していただきありがとうございました。温かな感想に感謝しています。
- 3年の道徳では、子どもたちが落ち着いて学んでいる姿に感動した。先生の問いかけに対しても、友達のと比べたり、関連づけたりして答えていた。幼稚園でも、少しでもできるようにしていきたいと思った。
- 最初は、保護者参観と違っておとなしめかなと思っていたが、先生とのコミュニケーションがよくとれていていい授業だった。
- 午前中から参観させてもらった。目を合わせた子どもたちが駆け寄ってきて、いろいろ教えてくれたり、自分ができることを活発に言ってくれたりした。日頃からよく学んでいるなと感じた。
- 大山の学校・園に来るのは初めてだったが、幼稚園も小学校も見せていただき、子どもたちが先生方に愛されているなと思ったし、子どもたちも伸び伸びと学んでいていいなと感じた。
- 子どもからの挨拶が心地よかった。しっかりきちんとできているのが良かったと思う。
- 午前中から参観させていただいた。門を入ったら、「こっち来て。」と言われて、自分の孫のようで、挨拶もきちんとできていた。幼稚園の中に木や松ぼっくりなどがあって上手に活用されていた。小学校は全体的に温かな雰囲気だった。道徳では、子どもたちの目の輝きが素晴らしく、一生懸命考え、発表し、聞いている姿が立派だった。
- 幼稚園を参観させていただいた。子どもたちが大勢遊んでいたが、そんな中でも、先生方が子どもたち一人一人の様子を注意深く観ている姿に感心した。年長の「チャレンジ」を見せていただいた。自分ができることを人前で発表する機会があるということは、「自分ももっと頑張ろう」というチャレンジ精神を伸ばす場になり、とてもいい経験になっていると感じた。
- 小学校の授業を見て学ばせていただいた。6年生の理科だった。先生が指示する前に、子どもたちがいろいろ考えてノートに書き込んでいたのが印象的だった。グループで考えを生かして活動していたのも良かった。
- 5年の外国語の授業を参観した。教室内にいろいろ英語の表記が掲示してあって、その英語の文

字が子どもたちの目に入るようになっていた。そして、授業者も子どもたちにそのことを意識付けているのが分かった。子どもたちは、話をするときに、時折掲示物に目を向けながら話していた。生き生きとした授業が展開されており参考になった。

- 幼稚園を参観した。とても元気な子どもたちだった。小学校では道徳と英語の授業を見た。子どもたちが生き生きと学んでいる授業だった。

(教育長退席)

4 協 議

(1) オリエンテーション

(大山小教頭 相沢 周)

協議の進め方についての説明(付箋に書き込み、それを使いながら熟議を進める)

- ① テーマについて、学校・園、保護者、地域が協力して大山の子どもたちを育てるという視点のもとに、「(学校・園、保護者、地域 それぞれが) できること・行いたいこと」を赤の付箋に、「(学校・園、保護者、地域 それぞれに) お願いしたいこと」を青の付箋に書き込む。
- ② 台紙に、記入内容に合わせて「グルーピング」しながら付箋を貼り付け、話し合いを行う。
- ③ グルーピングしたものに「見出し」をつける。
- ④ 各グループの話し合いの内容を、全体で共有する。

(2) 本校・園の教育活動について及び本日のテーマについて (大山小校長 館脇 一弘)

(パワーポイントを使って説明)

- ① 大玉村が目指す教育(「夢を育てる教育」～おおたまに学び、世界とつながる人間の育成～)、目指す人間像(①共に支え合い自尊心をもった人 ②未来を切り拓く力をもった人 ③あきらめない強い心と健康な体をもった人 ④社会性・市民性をもった人)を受け、大山幼稚園・大山小学校は以下のように同じ教育目標を設定した。

◇ 教育目標 『めざせ!夢に向かってがんばる子』～地域と共に、自らの夢に向かって努力し、未来を拓く子どもの育成～

② 大山幼稚園の教育活動について

- ア めざす幼児像 ○『進んで遊ぶ子』(学び続ける人) ○『なかよく遊ぶ子』(共に生きようとする人) ○『元気に遊ぶ子』(心身を鍛える人)
- イ 自ら進んで意欲的に学ぶ子の育成(主体的に活動する力の育成、考える力・表現する力の育成)
- ・ 子どもの遊びの様子は、
 - 3歳児 … 好きな遊びに取り組んでいる。
 - 4歳児 … 年長児の刺激を受けながら遊んでいる。
 - 5歳児 … これまでの経験を生かして遊んでいる。
 - ・ 主体性、工夫を生かしながら遊び、多くを学んでいる。
 - ・ 読み聞かせなど様々な体験を通して、考える力・表現する力を育成している。
- ウ 身近な人とかわらうとする子の育成(社会性を学んでいく場の設定、豊かな体験活動の充実)
- ・ 地域のボランティアの方々、園児同士、小学生と関わりながら活動している。(さつまいもの苗植え、菊地農園でのサクラランボ狩り、小学1年生との交流等)
- エ 心も体も健康な子の育成(たくましい心と体を育てる、健康で安全な生活をする力の育成)
- ・ 園庭で運動をしたり、ふれ合い広場を始め近隣を散歩したり、小学校の遊具で遊んだり、様々な体験を行ってきた。
 - ・ 「ふれあいデー」では、ゲームをしたり、踊ったりと、多くのボランティアの方々に支援を

いただきながら楽しむことができた。

③ 大山小学校の教育活動について

ア めざす児童像 ○『進んで学習する子』（学び続ける人）○『なかよく助け合う子』（共に生きようとする人）○『健やかでたくましい子』（心身を鍛える人）

イ 本校の課題

学校関係者評価より前年度の取り組みから見た課題が3つある。

「学力向上」

- ・ 家庭学習を継続して行い、学習の約束を守ることができていない子が多く見られた。学びに向かう力「自己マネジメント能力」が身につけていない。

「自己肯定感が低い」

- ・ 児童の自己評価で、「自分の良い所が分かっていますか」の項目の評価が低かった。
- 「規則正しい、望ましい生活習慣が身につけていない」

これらの課題を踏まえて、今年度の重点は以下の通りである。

ウ 『進んで学習する子』の具体目標 → ◎主体的に学ぶ態度を養う。○基礎的・基本的な学力を確実に身につけさせる。＜＝学びに向かう力「自己マネジメント能力」を身に付けさせること＞

○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業づくり

- ・ 発問の工夫・コーディネート、聞く・話す・書く活動の位置づけ、自ら解決していく学習体験、「友と学ぶ」「友から学ぶ」学習態度の育成
- ・ 授業向上の手立てとして、定着を図るために、「授業スタンダード」を活用した授業改善と充実に取り組んでいる。
- ・ チャレンジタイムの実施（日課表に位置づける）
- ・ 朝の時間、毎週水曜日の昼休みに実施

○ 学びを支える学習基盤づくり

- ・ 家庭学習の手引きによる習慣の定着、視野を広げる読書活動の推進
- ・ おおたま学園学習習慣検討委員会作成の「家庭学習の習慣を身につけよう」をもとに、低学年用、中学年用、高学年用の学習の手引きを作り活用している。
- ・ 読書活動推進では、ボランティアの方々の協力をいただいて、輪番で読み聞かせを行っている。
- ・ 子どもたちがおすすめの本を葉書に書いて、図書室のポストに入れる「ポスト郵便」を実施。
- ・ 家庭読書においてもパンフレットを配付して、家庭との連携で進めている。

エ 『なかよく助け合う子』の具体目標 … ◎自他の良さや違いに気付き、認める心を育てる。

○進んで周りの人や社会（集団）に関わる力や態度を育てる。

○ 道徳教育の充実

- ・ 方向性を明確にした授業実践 ・指導時数の確保と指導方法の工夫
- ・ 道徳の授業においては、道徳教育全体計画を作成し、それをもとに学校行事を始め各教科との関連を図りながら指導している。

○ 生徒指導の充実

- ・ 「生活の基礎力の指導」「いじめや学校不適応の未然防止」に対応するため、日々の児童観察、毎月のいじめアンケート調査を実施して、なかなか目に見えない児童の様子を把握し、素早く対応できるようにしている。

- 体験活動の充実
 - ・ 身近な社会との関わりを広げる指導、豊かな人間性を育む指導、地域素材の活用、体験活動の充実などに取り組んでいる。
 - ・ 地域素材の活用体験では、4年生の社会科で消防団の方々に来ていただき、仕事の様子を教えていただいている。5年生は、田植え、稲刈り等の農作業の様子を見せていただいたり、今年はそばの種まきから収穫までを体験させていただいた。
 - ・ 異学年交流では、昼休みの時間を活用して、縦割り班によるふれ合いタイムを設定して、高学年児童が主導しながらみんなで楽しく遊びやゲームをしている。
 - ・ これらの体験活動により、子どもたちが自分を知ったり、友達の良い所を賞賛し合ったりする経験を通して、自己肯定感が高まるようにしている。
- オ 『健やかでたくましい子』の具体目標 … ㊦たくましい心身を育てる。㊧健康や安全に気をつけて生活できる力を高める。
 - やりぬく心の育成
 - ・ めあてを持たせた取り組みとその支援・評価の充実を図る。
 - ・ 自主的な体力作りの習慣化を図る。
 - ・ 教科体育では、学習カードを活用しながら、目標を持たせて取り組ませ、業間の時間にマラソンやなわとび等で体力作りに努めている。(季節に合わせた運動)
 - 健康・安全指導の充実
 - ・ 基本的生活習慣の形成、危険予知能力・危険回避能力の育成に努めている。
 - ・ おおたま学園生徒指導委員会の事業「わが家のアウトメディアデー」については、各家庭ごとに、具体的なアウトメディアの目標を立てて取り組んでいただくようにしている。
 - ・ 各研修の結果を受け、養護教諭を中心に個に応じた保健指導を行っている。
 - ・ 安全教育についても、日々の安全指導に加え、交通教室、避難訓練等の機会を生かして、具体的な指導を行ってきた。
- カ おおたま学園との連携、保護者・地域・各種団体等との連携・協力、大山幼稚園との連携・交流を図っている。

以上、これまでの大山幼稚園・大山小学校の教育活動について説明しました。よろしくお願ひします。

(3) グループ別協議 ※ 各グループごとに進行

(4) グループ別協議内容の発表・共有

Aグループ：「学習」について

【テーマ】 よりよい読書習慣を身につけさせるために ～家族読書のあり方について～

- 本との出会いを大事にすること
 - ・ まずは、学校や幼稚園でできる読書のきっかけ作りを継続していくようにしたい。
 - ・ 学校図書館の利用
 - ・ 絵本から本への移行をどのように図っていたらよいか工夫が必要
 - ・ 図鑑や地図などによって興味を持ったところから、読書に入っていくこともできる。
- 保護者への意識付けが必要
 - ・ 子どもたちが、どれだけ目を輝かせて喜んで本の読み聞かせに臨んでいるかを、何らかの機会に保護者にも参観してもらうようにする。

→ 幼稚園では絵本タイムや参観日等を利用して行っている。小学校でも取り組んでみてはどうか。本の素晴らしさを保護者に気付いてもらうよい機会である。(家庭での読書につながる)

○ 参加しやすいお話会の実施

- ・ 小さい規模で、身近な所で実施するのはどうか。

お話会はあるが、保護者に連れて行ってもらえなければなかなか参加できないという現状もある。ちょっとした場所(集会所等)で、子どもたちが自分で行きたいと思ったらすぐに行けるような所で実施するのもよい。

- ・ 地域のイベント等で、一部お話会を組み入れて実施するのはどうか。

(ex.直売所等で)

○ 読み聞かせ(お話)ボランティアの育成が必要である。

○ 家庭での環境が大事。特にメディアとの関係は大きい。



Bグループ:「仲よく」について

【テーマ】メディアの上手な使い方を身につけさせるために ～実態や対応策についての情報交換をしましょう～

○ キーワードは「学校と家庭が連携して取り組んでいく必要がある」ということ

○ メディア利用のルール作りについて → 約束事をきちんと決めることが大事

- ・ アウトメディアのルールについて家庭で再確認し、しっかり話し合うこと。(〇時以降は使わない、個人情報絶対載せない等制限を設ける)

○ トラブルのないメディア使用について(親子スマホ教室の開催)

- ・ やってはいけないこと、このようなことを書き込んだらいやな気持ちになってしまうこと等学ぶ機会をつくる。

- ・ スマホは実生活の中で絶対必要なツールである。上手な使い方を子どもと保護者が一緒に学ぶ機会があるとよい。(教育フォーラムの際はどうか。)

○ 学校では、道徳の授業等を中心に教育を行っていくことが大切。

○ ゲーム依存は大変危険である。そうならないように取り組む必要がある。

○ ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)によって、低学年から人との接し方や言葉の使い方(ふわふわ言葉、ちくちく言葉等)について学ぶことも大切である。



Cグループ：「健やか」について

【テーマ】よりよい生活習慣を身に付けさせるために ～早寝・早起きの習慣化、生活のリズムづくりについて～

- 「なかなか寝付けない」、「なかなか起きられない」という現状を変えるために
 - ・ 大人が子どもの生活リズムに合わせて生活してみること。寝る時間を決めて、そこから逆算してどんな生活をしたらいいか子どもに考えさせるとよい。子どもが自分で考えて決められるように、寝るためのリズムを自然に身につけられるようにする。そういうことを習慣化していけるような家庭内でのシステムづくりが大切である。
 - ・ アウトメディアデーの取組みを活用する。テレビを見たり、SNSをしたりしないで、読書の時間に充てる等し生活のリズムづくりをする。
- よりよい生活習慣のために
 - ・ 学校や幼稚園で、「なぜ大切なのか」、「そうするとどんないいことがあるのか」を伝えていく。
 - ・ 生活習慣アンケートや朝食調べ等のアンケートを続けていくことで、自分ができたことや数値の伸び等が分かって達成感を得ることができる。
 - ・ TVゲームやSNS等、親が管理できるようになっているので確実に行う。
- 子育てについて先輩保護者が教えていく機会を設定する。
 - ・ 「朝食を取らないと悪い影響がある」ということを知らない親子もいる。保護者のつながりをもっと大切にする必要がある。
- 親の勤務形態もまちまちで、厳しくなっている。それに伴って、食事が十分にとれない児童も出てきている。今後、その解決策を考えていかなければならないのではないかなと思う。
(自分で簡単にできる食事のし方、業間時の牛乳の提供等)



5 講 評

(C S 委員会会長 伊藤 和弥)

今日は情報の共有が十分にできたと思う。このことを幼稚園、小学校が何かしらの形で利用できれば有意義である。C S委員の皆さん、ご協力ありがとうございました。

6 御礼のことば・今後に向けて

(大山小学校長 舘脇 一弘)

今皆さんに話し合いをしていただいたテーマは、本校の課題である。課題について考えを出していただいたことを、次年度の教育課程編成、運営ビジョンの作成、今後の指導等に生かしていきたい。ありがとうございました。

7 閉会のことば

(C S 委員会副会長 大山 明美)

皆さん、長時間お疲れ様でした。これで大山幼稚園、大山小学校運営協議会を終わります。ありがとうございました。